屯田兵から自衛隊へ

【吉田　明生】

Copyright JAPAN POST BANK All Rights Reserved.

背景と任務

１　背景

樺太と北海道警備の必要性、経費上の問題

２　任務

①　士族による北海道の警備と開拓

②　道路・水路などの開発工事

③　街路や特定建物の警備

④　災害支援等

屯田の由縁

１　前漢の武帝（BC140-87）

中国の西域に兵士を配置して、外敵を防ぐ「屯田」設置

２　薩摩藩の外城士（とじょうし）

鶴丸城を本城とし、領地を外城と呼ぶ113の行政区域に分け、

半農藩士の外城士と呼ばれる武士集団を居住させ、統治

３　ビザンツ帝国の辺境統治（7C頃～9C）

軍管区制へ移行すると、反乱等続発、のち衰退

４　ロシアのコサック兵（16C）

没落貴族と盗賊によって構成し、自治共同体を形成

特徴

① 家族とともに開墾に従事

17~35歳、農業に従事できる15~60歳の家族二人以上

② 長期勤務の志願制度で、世襲制

③ 当初、困窮士族、のち、 平民出身者中心

④ 法制度上は、兵卒から士官への昇進制度なし

⑤ 当初、志願者 198戸、965人 合計7337人

⑥ 当初、現役3年、予備役4年、後備役13年、40歳まで

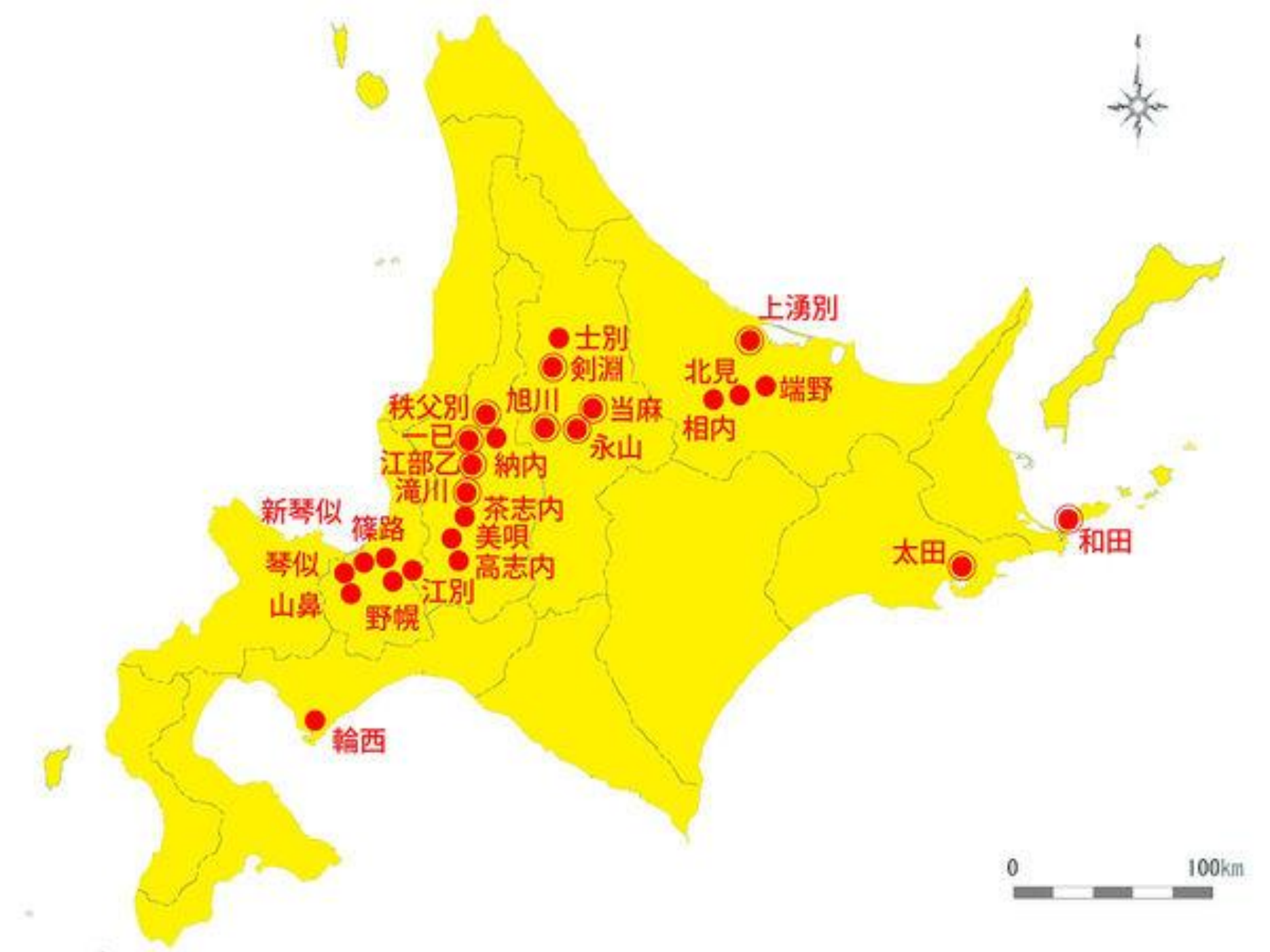
支給品等
〔支給／入植後3年間のみ〕

- ○ 支度料2円、旅費、日当33銭
- ○ 兵屋17．5坪（約58㎡）
- ○ 家具（鍋、御椀、手桶、夜具等）
- ○ 農具（鍬、鎌、砥石、鉈、ヤスリ、鋸、ムシロ等）
- ○ 扶助米（玄米7合5勺／日／人）
- ○ その他

  医薬品、埋葬料等

日　課

4時	ラッパで起床（冬は5時）
	主婦は炊事のため、その前に起床
5時	整列点呼　：健康状態の把握
6時	課業開始
12～13時	昼休み
18時	課業終了


上湧別
士別
剣淵
北見
端野
旭川
当麻
秩父別
相内
一已
永山
江部乙
納内
滝川
茶志内
新琴似
篠路
美唄
和田
太田
琴似
高志内
江別
山鼻
野幌
輪西
0
100km

生活等

・（年齢15歳を17歳と偽り）戸籍を誤魔化して志願
・読み書きのできない者もいた
・船中でのくじ引きで入植地が決定
・兵屋もくじ引きで決定
・方言で言葉が通じず
・道路もない密林の原始林
・到着して鬱蒼とした森を見て泣き出す女子供。毎日、泣いてばかり
・熊が徘徊
・武術はできるが、農作業は初めて
・敬礼もできないまま練兵訓練参加
・耳当て、手袋等、防寒着がないまま冬の訓練
・逃亡する者も
・疲れて、便所でかがむこともできぬ有様
・泥炭地。無肥料で育たず、収穫できず
・製品は各自随意に販売
・米沢藩出身者は産業に熱心で、農業ができた

兵屋の平面図

「西郷どん」の思想と政策

① 新しい国作り

四民平等（「敬天愛人」）

② 独立の確保

国軍の整備（正規軍と屯田兵）

③ 国内の統一

中央集権化・近代化の必要性

④ 政策（方策）

廃藩、困窮士族救済、国軍の整備

「西郷どん」から、永山武四郎へ

1869年　版籍奉還、開拓使設置（黒田清隆）

1871年　大蔵省事務監督

廃藩置県、御親兵（薩長土）、　屯田兵提唱

1872年　参議、元帥・近衛都督、太陽暦採用

1873年　地租改正、徴兵制、屯田制建議（黒田清隆）

1874年　「屯田兵例則」制定、入植開始

1875年　千島樺太交換条約

1876年　秩禄処分

1877年　西南戦争

1882年　軍人勅諭

1878年　永山武四郎　屯田憲兵総理就任

1882年　開拓使（屯田兵事務局）廃止し、陸軍省へ移管

1885年　永山武四郎少将　屯田兵本部長就任

1886年　屯田兵本部を屯田兵司令部に改称（軍隊組織へ）

1888年　永山武四郎　第2代北海道長官就任

1889年　永山武四郎　屯田兵司令官就任

1892年　屯田兵司令官　師団長会議列席

1894年　日清戦争

1895年　臨時第7師団編制（永山中将）、出征

1896年　第7師団誕生（陛下「第シチ師団長を命ずる」）

1901年　司令部　旭川移転

1904年　日露戦争（旅順攻囲戦、奉天会戦に参加）

「屯田兵（憲兵）例則」廃止

旧軍時代の第7師団

1907年　樺太庁開庁

長官・樺太守備隊司令官を第7師団長が統括

1913年　樺太庁廃止

1918年　シベリア出兵

1920年　サハリン派遣軍編成

1938年　満州派遣

1939年　ノモンハン事件

1943年　北方軍司令部編成（札幌）

1945年　北部軍管区司令部編成

敗戦・米軍進駐

陸上自衛隊

1950年　朝鮮戦争勃発　　警察予備隊発足

1951年　第2管区隊編成　10,752人

　　サンフランシスコ講和条約調印

1952年　保安庁発足　北部方面隊編成　約27,000人

1953年　奥羽4県の警備を第1管区隊に移管

　　第4回さっぽろ雪まつり　音楽隊参加

1954年　米軍から、防衛任務移譲

　　第5管区隊編成

1955年　第6回さっぽろ雪まつり　大雪像作り支援

1956年　第7混成団編成

1960年　方面管区制移行

1962年　第2師団、第5師団、第7師団に改称

第11師団新編

1972年　第11回冬季オリンピック

1976年　ミグ25　函館空港構成着陸

1981年　第7師団を機甲師団に改編

1982年　日米共同指揮所演習（YS-3）

1983年　日米協働実働演習

1991年　ソ連崩壊

1993年　カンボディアPKO派遣

長期的には、ロシア対処を考慮、

朝鮮半島は、外交交渉を重視して、短期的処置